



柏ビレジ・ニュース



1995年1月10日

田中地区市民運動会始末記

〈実行委員長〉 笹本 進



毎年田中地区の各町会、自治会が合同して開催する大イベント、「田中地区市民運動会」が今年も十月二日(日)に田中中学校校庭で盛大に催された。コミュニティ内相互の連帯意識を高め、柏ビレジの存在をアピールする絶好の機会である。

柏ビレジ自治会は一五〇〇世帯から成り、このコミュニティで最大規模を誇り、当然「名選手」や「迷選手」が多数いるはずとその活躍が期待され、今年も注目の的であった。



「参加することには意義」とはいえ出る以上は何としてでも上位入賞を頼み前評判の高かった「鯨政の永野ブラザース」に特別出場要請を行なった。彼らの活躍振りは後述する。

さて、小生の主な役割分担業務はテント、机、椅子、太鼓、ポリバケツその他無数の機材、備品の運搬業務である、マニュアルに従って前夜中にレンタカーのトラックにこれらを積み込んでおくため、トラックを借用に行ったのだが何と道中どしゃぶりの大雨。ひよつとすると明日はこのトラック、何にも使用せずにこのまま返却するのはと不安

がよぎる。雨で順延となればすべて一からやり直し、「選手集めが大変なんだからかんべんしてくれ」、「集まらなかったら役員がころがしで全競技に出るしかない」、「歯抜けで出た方がいいのでは」、「それでは格好が悪い」等々全員ぶつぶつ言いながらも一応はすべての準備を完了した。トラックには濡れても支障のない机、椅子を積み込み、あとは運を天に任せるとのみ解散した。

明けて十月二日、小生は興奮の高まりを押さえ切れず、朝五時に目が覚めた。(興奮の高まりがなくとも毎朝五時に起床しているが)ふとんの中でじつと外の気配を察すると、何となく雨ではなさそうである。一時間じつと息を殺して六時を待った。六時に合図の花火が上がれば決行、上がらなければ中止との打合わせであったが何と六時の時報と同時にドッカーン、ドッカンと胸のすくような音が鳴り響いた。すぐさま作業衣を着込み顔も洗わず家を飛び出し自治会館へ一目散。他の役員も眠むそうな顔をして、あるいはさっぴりとした顔をして集まってきた。じつくりと空を見上げれば雲一つない日本晴。自治会役員の「日頃の行ない」の結果である。



早速、トラックに機材、備品の積み込み作業がはじまった。皆テキパキとよく働くこと。会社でもこんな一生懸命働いているのかなあ?

一部留守部隊を残し第一便が会場の田中中学校へ急行すれば別動隊がすでにスタンバイしている。絵に書いたようなチームワークではないか。テント張りの我が陣地の設営作業がはじまった。夏祭りで要領を熟知した役員達、二張りのテントをあっという間に立ち上げてしまった。弁当が運び込まれる。ビールもジュースも、役員OB会からは七輪にさんま、あじの干物まで運び込まれた。しかし上には上がいるのである。隣のテントに目をやれば何と大きな鍋におでんや煮込、良い匂いをあたりにまきちらし、一升瓶まで並び、まるで居酒屋の風情、ひよつとするとカラオケもあるのではと見回したがこれはさすがに無かった。そうい

ば朝めしはまだだった。婦人部隊が調達してくれたおにぎりをパクリ。労働したあとのめしはうまい。前夜の大雨で馬場の状態は適当な水分を含みほこりも立たず絶好の「良馬場」である。秋空の下、我がビレジチーム総勢二十数名は司会者のアナウンスに促され小生がプラカードを高々と掲げ、最後尾の堂々の入場行進。各テントから盛大な拍手を受けた。入場行進が終了する頃にはビレジのテントも敬老会のおじいちゃん、おばあちゃん、子供会の良い子たち、家族連れのファミリーで一杯になった。

競技が開始された。個人競技、団体競技共に落下傘選手の鯨政ブラザースが大活躍。鯨政ブラザースの永野姉弟は柏の葉にお住いだがビレジ内の鯨政にお勤めなので正選手と呼んでも差し支えないかもしれない。個人競技の一〇〇m走では二人共優勝。団体競技では六〇〇mリレーで、鯨政ブラザース二人で計五人をこぼす抜きの残念ながら入賞を逃がした。又「年齢別ボール運びリレー」では予選を三位で決勝に進み、決



勝では先行走者三人を抜き去り二位に浮上したブラザース姉よりバトンを受けたアンカーの小生が、先頭走者の一瞬の隙をつきゴール寸前で差し切り、見事優勝した。

他の団体競技では綱引き予選でビレジチームは日頃の運動不足がたたってあつげなく初戦敗退。アニス部が合宿のため参加できなかったのが痛かった。小学校対抗リレーでは見守場を作り大いにテント内を湧かせたが結果は残念。むがで競争はチームワークの良さを大いに発揮し第三位、子供会でチーム編成し上位入賞が期待された長縄飛びは練習ではそこそこいけそうとの感触であったが本番では日頃のお行儀の良さが出てしまわずか? 回で残念ながら入賞を逃がしてしまつた。結果は出せなかつた。子供会の良い子の皆さん、ご協力しないで、参加して一生懸命がんばったことに意義があるのだから。

特筆すべきは大会本部が審査する各町会の応援合戦の結果であった。ビレジ自治会は特別なパフォーマンスもなかったが子供会を中心に最後まで切れることなく応援を続けたことが評価され第三位に輝いた。我々実行委員、自治会役員は大いに感激し、賞状のコピーを子供会の参加者に配り、その功績を称えた。個人競技においてもビレジチーム

の参加者が賞品の特大醬油やサラダオイル、ソース、ポリバケツ等を戦利品として持ち帰った。日本晴の秋空の下、参加者のすべてが満足した一日ではなかったでしょうか。

実行委員会としては当日を迎えるまでは様々な苦勞があった。毎年最も苦勞するのがやはり選手集めだ。役員及びその家族で全競技に出場することになる。子供の学校の運動会や勤務先の運動会も楽しいが地元コミュニティの運動会でご近所のお父さん、お母さんと一緒に走り回ることも仲々楽しいことと身をもって感じた一日であった。そしてこの行事を通じて自治会の結束がより深まったことは間違いないだろう。反省会では「年齢別ボール運びリレー」優勝の賞状と「応援合戦」第三位の賞状を酒の肴に関係者一同大いに盛り上げたことは言うまでもない。

最後にこの紙面を借り、終始一貫して全面的にご協力いただいた子供会関係者の皆様と役員OB会の方内さんと森さんに感謝申し上げます。



「平成六年九月十九日」

◆法人化実行委員長◆

桜井孝

生命の進行は、全体的に

言って積分的であると信ぜられていた。ここに積分的というのは、言われているように完全体を築き上げる傾向のことである。自然科学者たちは、生物進化の方向を不安定と無秩序に背を向け調和と進歩に面を向けるものと規定している。人類における進化は、人間のみ特有であるところの文化を随伴することによって他の生物と異質である。

人間におけるかような文化現象は、人間にのみ植え付けられている理性を生みの親としている。理性は理想という命題を端的に派生せしめるわけであるが、理想それ自体は、本来この世に存在としては存在していないかかたる不在の実現を不断の努力によって実現化する志向が、すなわち人類における文化現象であると規定できるであろう。もし理想が不動の完成体としてこの世に実在化してしまうと、もう、それは理想たることを止め、古き理想はその生涯を閉じ新たな理想が芽を萌す。この絶えざる運動法則はジグザグコースを喘ぎながらも人類の完成体ないしユートピアをめがけて不断に一步を進めしめて

いるに違いない。

理想は、交替する。江戸時代の大理想は、現代の大理想ではありえない。しかし、たとえば我々は遠く滅び去った封建時代の物語のうち自らの身を仮託し、当時の理想や倫理の美しさに感動してしまうという芸当を心得ている存在である。古い理想のうえに構築せられてある古い文化に近代人がなお共感を覚える根拠の一面はここに存する。そうして、封建社会の理想における歴史的な美しさは市民社会の大理想下にも儀式といふような機構のうちに組み入れられてなお客観的存在たる制度のうちに生かされがちでさえあるなかで、我々柏ビレジ「市民」は、理想の実現化として法人化を選択し平成四年の十周年実行委員会で行った着手し、平成五年六月に法人化実行委員会に継承され、平成六年九月十九日(認可年月日)ここに柏ビレジ自治会の客観的な誕生日をもつことができたのである。

最後に、あしかけ二年、法人化実行委員の皆様、本当にご苦勞様でした。良き隣人を得た思いと、深い感謝の念を捧げさせて戴きました。ありがとうございます。

柏市コ第139号
平成6年9月19日
柏ビレジ自治会
会長 福井 孝 様
柏市長 本 多 様
地縁による団体の認可等について(通知)
平成6年4月24日付けで申請のありました地縁による団体の認可申請につきましては、下記のとおり認可し、告示しましたのでお知らせします。
なお、告示事項についての証明が必要な場合は、手数料を添えて下記担当課にお申し出ください。
記
1 認可年月日
平成6年 9月19日
2 告示年月日
平成6年 9月19日
3 問い合わせ先
市民部コミュニティ課
電話(67-1111 内線362)

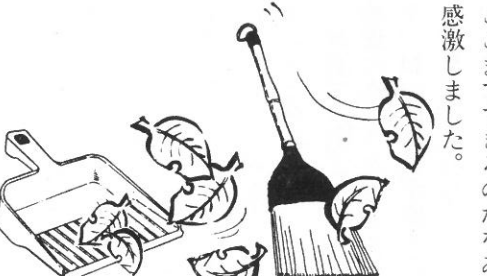
ごみ問題に関心を!

ビレジごみを考える会

森 博子

落ち葉の堆肥化

十一月二十七日のクリーナーも、よく晴れて絶好のお掃除日和でした。落ち葉の堆肥化作戦も回を重ねて、三度目となり、今回はほとんど緑化委員会のお世話になりました。田中農協から配布された大きな網袋も、去年三十袋で足りなかつたので、今年は、六十袋になりましたが、それでも水辺の公園の集積所などで



は、足りませんでした。トラック五台分の落ち葉というわけで、半端ではありませぬ。これが全て船戸のごみ焼却工場にはいつていたら、本当に勿体ないし、焼却工場も余分な仕事が増えてし、二酸化炭素もでていたことでしょう。一人や二人の力では、とてもできない、自治会ならではの大きな力とあります。去年とは比較にならないくらい分別状態もよく、一部の集積所でも若干の、家庭の資源ごみ(空き缶)や伐採くずが、気になった程度でした。

目的・意義・やり方がはつきりしてきて、しかも慣れてきたからでしょうか。ここまですることができるのだなあと感激しました。



もちつき大会は容器持参で

こう念を押しますのも一月には、また恒例のもちつき大会があり去年の様子では、大半の人はもってこられたようですが、やや容器の持参率が低かったように思っています。それぞれが持ってきたら、家に帰ってから洗うだけで済む容器ですが、持ってこなければ、用意された容器を、一度だけ使って捨てることになり、自治会で容器を用意するのが親切のように思われる方も、いらつしやるかもしれないが、違うのです。もちつき大会での容器持参にご協力を。

トレイの回収
トレイの回収が、東急ストアでもついに、この秋から始まりました。トレイというところで、種類が、決まっているので、これは、利用価値のある資源化といえます。しかも、事業者が、その費用で回収・資源化している、責任をはっきりさせているところが、いいと思います。私たち消費者が、トレイを洗って、東急ストアに返しに行けるかが、次の問題です。ほんとは、ノートレイが理想ですが、現状では、トレイを使っているのですから、返すのは、こちらの責任です。少し手間がかかりますがご協力を。

私たちが生活すればかならずごみが出ます。そのごみを最小限にとどめることが、子供たちに生存可能な地球を残すために必要とおもいます。

先日、市の清掃収集事務所から、ごみの早出し・遅出しについて連絡がありました。遅出しは、十一月十六日(水)ごみの日の翌日に清掃収集事務所の人と回って見た結果、第一支部の二カ所に不燃ごみが残っていて、持ち帰ってもらうために、シールを貼っておきました。他に第

いちど早出し・遅出しイベント
郡司 瞳様 五十四才
一〇二街区一四
十月九日逝去
稲田 秀行様 七十六才
一〇六街区一七
高宮健司氏の義父
十二月七日逝去
西村 平吉様 五十九才
一〇六街区一二
十二月一日逝去
川端 正博様 四十三才
一一九街区一十八
十二月十八日逝去

謹しんでご冥福を
お祈り申し上げます
柏ビレジ自治会館 広報まで

恒例 柏ビレジ餅つき大会のお知らせ
とき：平成7年1月22日
じかん：午前11時～午後2時(予定)
ところ：柏ビレジ近隣公園
当日は、おはし・お皿をもって来て下さい。